

## 平松けんじ後援会報

市議会議員となって二期目が終わる節目に、この二期六年の実績そして今後の展望を皆様にお伝え致します。

### 土地開発公社の問題

青年会議所に在籍していた頃、先輩から市の財政、特に夕日ヶ丘団地事業などによる土地開発公社の借金の問題を聞いていました。当時は、具体的な内容も知らず、土地の売買により、借金が増え、何と無駄なことをしたのかと、ただ批判するだけでした。

しかし、市議会議員となってからは、この問題をただ批判するのではなく、問題を解決する責任が生まれました。しかしながら平成17年度に行った個別外部監査の報告を読み、今の地価下落を考えると容易な問題では、ありません。

土地を売るにも経費をかけて宣伝するだけでは、売れません。また、地価を安くして販売しようにも、既に土地を購入した人たちに対する詐欺的行為になってしまいます(地価の下落が進めば実施しないといけない時期も来るかもしれません)。今出来る事は、何か。ただ一つの確実な策は、借金に対する金利対策です。(これは、問題の抜本的な解決策でなく、現状をよくする為の策でしかありません)

当時の財政課長から、市中銀行などからの借入れの金利や市のキヤッシュフローの現状などを聞きました。そして、私が出した結論は、市が直接土地開発公社に貸付を行うと言うものです。市には、基金などの資産があり、それを無償で貸し付ければ、その分、市中銀行に払う金利が無くなる訳です。また、市が年度変わりに利用する「一時借入金(金利1%)」を有効に使えば、それにおいても市・公社トータルで金利の軽減が達成出来ます。

平成18年3月議会において、土地開発公社に対する無償貸付10億円が成立しました。しかし、この

時も何故10億円なのか、もつと貸付出来なのかと追及し、以後貸付が増額され現在では、35億円を市が土地開発公社に無償貸付しています。これにより年間約4,500万円程度の金利軽減が出来ています。

但し、この金利軽減策により、市本体の財政が硬直化(使えるお金が少なくなり、事業の選択肢が狭くなる)したことも事実としてあると考えられます。

しかし、市民の皆様からお預かりした税金を生産性の無い、金利で使ってしまうことを考えれば、最良の策であると考えます。

### ゴミ処理事業の今後

平成21年9月議会で清掃センターへのゴミ持ち込み料下限廃止を「否決」しました。

この議案は、清掃センターへゴミを持ち込む場合、40kg以下は、無料となっているものをすべて有料にすると言うものでした。

元々この議案が出された目的は、企業などが日に何回も40kg以下にゴミを分けて搬入することを無くさせる為に出されたものです。現在の条例においては、日に何度

もゴミを持ち込むことを禁止しておらず、取り締まることは、出来ません。そこで「すべてのゴミの持込者」に対して料金を徴収してしまえと言うものです。

議員の大半がこの安易な策に反対し、否決となりました。

この様に小分けにしてゴミを持ち込ませない様にするのであれば、まずそれを禁止する条例を定め、指導していくことが先であると考えます。市側は、事務などが煩雑になり、困難であると言いますが、確かにそれは懸念されます。しかし、現状で把握出来ているところに対して指導・勧告することで大きく数字は、変わります。

私は、このゴミの持込下限廃止は、今後必要なことであると思います。それがあれば持込ゴミだけでなく、すべてのゴミについて受益者負担の議論を行ない実施すべきであ

ると考えます。

また、平成27年には、境港市の焼却場が老朽化により使えなくなりますが、現在本市では、米子市クリーンセンターの余力を活かし、県西部地域のゴミを受け入れてもらう様、働きかけをしています。以前、西部広域行政管理組合で新規に焼却施設を作る計画もありましたが、その場合、建設に係るコストが大き、該当の市町村には、大きな重荷になります。それであれば米子市に對しそれ相応の負担金を支払い、ゴミを処理してもらった方が周辺の市町村にとっても、米子市にとってもトータルコストの削減が達成されるはずですが、米子市においては、県西部の中心市として責任ある判断を望むところです。

### 境港市体育協会の指定管理

平成18年から境港市の体育施設の多くを境港市体育協会が指定管理者として管理しています。私は、境港ボート協会の一員として、この市体育協会の評議員をしています。が、当時、市体育協会がこの指定管理者に手を挙げることに大きな不安を感じていました。

当時の市体育協会は、事務局を市の生涯学習課に置き、各競技団体と市・県のパイプ業務(補助金等の事務)が中心だったからです。

平成17年度の協会の総会で指定管理に向け取り組むことが議決され、理事を中心に事業が進むことになりましたが、賛同した責任もあり、無理を言って、その中に入れてもらいました。

私は、初めにそれまで管理を行っていた文化福祉財団の1年間の経費に関する書類を調査し、予算作成に携わりました。他の方々も各々の分野で、建物の管理に関することであったり、規約に関することであったり調査し、何とか指定管理者としての形を作っていました。

めでたく平成18年から市体育協会が指定管理者となりましたが、首を突っ込んでいたてまえ、今までの体育協会の事務や新たに発生し

た事務を私がやっていました。初年度は、手探り状態であった為、思い切った施設整備も行えず、200万円からの利益を出しました。この年の決算承認の総会会では、当初節税の為に利益を出さずに市に寄付する案もありましたが、今まで資産を持つていなかった団体なので、今後指定管理を行っていく中で資産も必要であろうと言うことでそのまま利益を出しました。

二年目に入り、専属の事務員の方を雇用することが出来、私の役目のひとつ終わりました。それと同時に一年の流れも解り、積極的な施設整備も行える様になったと思います。現在では、独自のホームページも出来、施設の予約状況が日々更新されています。

また、野球場の芝刈りなどは、利用団体である軟式野球協会が実施しており、市体育協会としては、経費の節減。軟式野球協会としては、会の運営資金にと良い関係が築けています。そして、テニスコートの整備などは、市が直接整備するより体育協会が請負って整備した方が安価で行えました。

一評議員の立場で境港市体育協会の組織改革に携わり、指定管理者の形を作って参りました。ちなみに私を含め、評議員の方や役員の方は、一切無報酬のボランティアです。

※境港市体育協会の指定管理に関する決算資料は、境港市体育協会ホームページの「協会概要」から見る事が出来ます。

## 中海 親水拠点構想

境港は、北に境水道、東に美保湾、西に中海と三方海に開けています。北と東は、水産業、貿易、観光の拠点。東に広がる弓ヶ浜は、ヨットやビーチバレーなどのスポーツ拠点としても活用されています。それぞれ整備が進められている中で私は、西側にある中海の利点を活かした親水拠点を作り上げたいと考えています。

私が良く通う中浜港(旧・麦垣港)では、ボートやペーロン、カヌーな

ど手漕ぎの船を使ったマリンスポーツが行われています。しかしながら、まだごく一部の方しか利用していないのが現実です。これは、海に近い環境にありながら「水に親しむ」環境が十分に整備されていないこと。ソフト事業がまだまだ不十分であること。そして「水(海)」＝「危険」といった概念があるからでは、ないかと考えます。

この中海の親水拠点整備についてハード事業とソフト事業をバランス良く実施する必要があると思います。

今日までの中浜港の整備の歴史を辿ると旧麦垣町の物流拠点としての産業貿易港として整備され、昭和初期には、防波堤が作られ避難港としての指定も受けています。昭和18年美保海軍飛行隊が誕生し、中浜港の船舶が船長共に海軍に徴用され沈没したという歴史を持っています。この様に悲しい歴史をもった港ですが、波風の影響を受け難いことから、昭和40年代に高校のカッターやボート、ヨットの艇庫が整備され現在の利用形態が始まりました。平成に入り、市が市民艇庫を建て、ボート協会がボート整備。また、ペーロン協会が青年会議所や日本財団の協力を得てペーロンを整備するなど官民それぞれの役割を果たして整備が進みました。更にソフト事業では、各種の大会を民間が実施し、ハード事業では、国・県・市がそれぞれの責任において護岸等の整備を行い、昔から比べると格段に良い環境になりました。

しかしながら艇庫や船の利用の運用において、関係者しか自由に使用していないのが現実です。先に述べた様に水(海)は、危険です。ですから現状では、その怖さを十分に理解している関係者しか使えない。逆の考え方をすれば「海に対する怖さ」を十分に教え、危険を回避できる安全策を取る必要があるのです。具体的には、指導員・監視員の常駐です。

一部の地方では、行政が主体とな

ってその様な環境を持ったところがあります。普段は、閑古鳥が鳴いていて、税金の無駄使いだと思えます。如何に普段から人が集い、そしてそれを運営する費用を作りだせるのが重要であると考えます。

その為には、まずソフト事業により、もつと人が集う環境を提供していくことが必要です。具体的には、大会やイベントの拡大。ハード整備にも関係してきますが、手作りのカヌー教室を行い、もの作りの楽しみ、海への親近感を持つて頂くと共に、個人でも気軽に乗れる船を整備します(二隻当り二万円程度で制作可能)。これらの事業は、行政からの金銭的協力を得ないでも実施可能な事業です。

また、近年改善傾向の見られる中海の自然を活かした環境体験学習も有効な方法です。

これらにより人が集い、運用資金が回る環境が作れば、行政の力で、総合型の艇庫。つまりは、船を保管するだけでなく、自然学習や体験型のキャンプなどが行える施設を整備して行きたいと考えます。

中浜港のある夕日ヶ丘には、野球場・陸上競技場・スポーツ広場とスポーツをする環境も整っています。将来的には、スポーツや自然学習を融合した合宿拠点となればと考えています。

私は、様々な施設(ハード)整備において、その施設が如何に有効に多くの方に利用してもらえるのが重要であると考えています。行政主体で出来た施設の多く(境港市では比較的少ないと思うが)が建てる事が目的となり、その先にある本来の目的がなおざりになっていることが多く見受けられます。

一市民として議員として事業を行う上で、最終の目的を明確に持ち、責任ある行動を取って行きたいと思えます。

## 発行者..平松けんじ後援会

〒六八四-〇〇三三

境港市上道町二一八

電話〇八五九-四四一四八